高齢者の豊かな生活のために　　２０２３年９月１日発行

手 賀 沼 通 信（第３０６号）

Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

５月号に続いて手賀沼通信ブログ抜粋です。

手賀沼通信ブログ抜粋

５回目の大腸憩室出血（ＮＯ．１６７６）（令和５年１月２３日）

２０２３年１月１８日夕方４時半ころ、トイレに行ったら出血しているのに気が付きました。また恐れていた大腸憩室出血です。前回から１年５か月後の５回目になります。

この病気は突然発病します。私の場合は何の前触れもなく、痛みもありません。そのため泊りがけの旅行や帰省ができなくなりました。旅先で発病したら直ちに現地で入院するしかないからです。

１度目は２０１６年１０月でした。夜中に何度も出血したので救急車を呼び、名戸ヶ谷あびこ病院に運ばれました。そこで初めて大腸憩室出血という病気だと分かりました。１１日間の入院でした。

２度目は２年後の２０１８年１０月でした。妻に名戸ヶ谷あびこ病院に車で連れて行ってもらい、そのまま１３日間入院しました。

３度目は５か月後の２０１９年３月でした。同じ病院で１４日間入院しました。

４度目は２年５か月後の２０２１年８月でした。その時は出血量が少なかったので、それまでの経験を生かして、３回目にもらっていた出血止めの薬を飲んで、丸１日間絶食し、その後も柔らかいものを少しずつ食べるようにして直しました。入院せずに済みました。

今回も出血量が少なかったので、４回目と同じように直ちに絶食、同じ薬を飲みました。ホームドクターに用心のため同じ薬をもらっていたのがよかったのです。

出血は２２日に止まりました。現在はやわらかい食事を続けています。おそらく数日後には普通の食事に戻れると思っています。

軽い出血で済んだのが幸いでした。これが３回目までのような何度も出血するような状態だったら入院するしかありませんが、コロナのため入院するのは正直怖いです。それにいまは病院が受け入れてくれるかどうかもわかりません。厄介な持病です。

持病持ちの高齢者にとっては静かに暮らすのが一番のようです。

日本のＨ３ロケットの打ち上げが直前に中止された（ＮＯ．１６８３）（令和５年２月１８日）

２０２３年２月１７日鹿児島県の種子島宇宙センターから打ち上げられる予定だった日本の新しいロケット「Ｈ３」１号機が、２段ロケットの第１段のメインエンジンに着火後、両脇にある補助ロケットに信号が送られず着火せず打ち上げ中止となりました。

ＪＡＸＡは打ち上げ失敗とは言っていません。ＪＡＸＡは機体を組み立て棟に戻し原因究明を行ってできるだけ早く打ち上げを目指す方針です。

Ｈ３は主力ロケット「Ｈ２Ａ」の後継機種として、ＪＡＸＡと三菱重工が２０１４年から約２０６０億円をかけて開発してきました。国産の大型ロケットの更新は２２年ぶりとなります。Ｈ３の能力はＨ２Ａの１.３倍、逆に打ち上げ費用は半分

の約５０億円となっています。

Ｈ３の開発については数日前にＮＨＫのＢＳ放送で１時間の番組を放送しており、それを見て１７日の打ち上げを楽しみにしていました。Ｈ３は当初は２０２０年中に打ち上げられる予定でしたが、メインエンジンの「ＬＥ－９」にひび割れが見つかったり、異常振動が起こったりして２度打ち上げが延期になりました。番組ではそのトラブルを苦心の末解決し、最終テストとなる２５秒間の燃焼テストに成功して、開発責任者の岡田匡史プロジェクトマネージャーほか関係者が抱き合って喜び、あとは打ち上げを待つところで終わっていました。

まさか本番で打ち上げが中止になるとは思ってもいませんでした。今度はぜひ打ち上げが成功するよう願っています。

「Ｈ３」ロケット１号機打ち上げは失敗に終わった（ＮＯ．１６８７）（令和５年３月８日）

２０２３年３月７日種子島宇宙センターから打ち上げられた、日本の新たな主力ロケット「Ｈ３」１号機は第２段エンジンに着火できず、約１４分後に指令破壊されました。

「Ｈ３」１号機打ち上げは２月１７日に打ち上げ直前に中止されました。その時はメインエンジン着火後、両脇にある補助ロケットに信号が送られず着火できませんでした。

その後不具合を調整して再度打ち上げに挑戦したのですが失敗に終わりました。

「Ｈ３」は現在の主力ロケット「Ｈ２Ａ」の後継機で、ＪＡＸＡと三菱重工が２０１４年から約２０６０億円をかけて共同開発してきました。三菱重工は約１兆円をかけて開発に取り組んできたジェット旅客機「三菱スペースジェット」もうまくいかず撤退を決めたばかりです。

日本は小惑星探査機「はやぶさ」では世界初となる成功を収めました。ところが主力ロケットでは世界に後れを取っていました。「Ｈ３」でその遅れを取り戻し、ロケットビジネスに割って入ろうとしたのですが、この失敗で信頼を失った感じです。

ただ「失敗は成功のもと」ですので、原因を早く解明し再挑戦をしてほしいと願っています。

近所の空き家２軒が荒らされた（ＮＯ．１６８５）（令和５年２月２６日）

２０２３年２月、近所の空き家２軒が空き巣狙いに荒らされました。

詳しいことは伏せて書きます。以前若松で火災があり、写真付きで詳しくブログに載せたところ、近くの住人からクレームが付きました。

また別のブログで舞台に上がった高校生の写真を載せた時にも注意を受けたことがあります。プライバシーとか肖像権の問題のようでした。ブログは誰が見るかわからないので、いろいろ気を配る必要があるようです。

荒らされた家はどちらも住んでいた方が施設に入っているため空き家になっています。１軒は見回りに来た家族が、雨戸とガラス戸が破られているのに気が付き警察を呼んだそうです。侵入された期日や時間は不明とのことでした。

もう１軒のほうは近所の人がガラス戸が割られているのに気が付き警察に連絡しました。どちらも屋内はかなり荒らされていたようです。もしかしたら同じ日に侵入されたのかもしれません。

最近は若松も空き家が増えてきたので、近くにこんなことがあると怖いです。気を付ける必要があります。おそらく泥棒は日中偵察して空き家かどうかを確かめていたのではないでしょうか。

最近はスマホで集められた人が強盗殺人を働いたり、オレオレ詐欺を行っています。日本も安全ではなくなりました。日本人も質が落ちたものです。

２０２２年の出生数が８０万人を割った（ＮＯ．１６８６）（令和５年３月１日）

２０２３年２月２８日、厚生労働省は２０２２年の国内の出生数（速報値）が、前年比５.１％減の７９万９７２８人だったと発表しました。

統計を取り始めた１８９９年以来初めてのことです。この数字には日本在住の外国人も含まれていますので、日本人に限ればもっと少ない数字になります。４７都道府県すべてで前年より減少しており、東京都が最も多く３７９５人減、最も少なかったのは移住者が増加した鳥取県で２名減でした。

出生数は第１次ベビーブームの１９４９年に約２６９万７千人を最高値として減り始め、第１次ベビーブームで生まれた子供が親となった第２次ベビーブームで２０９万２千人と持ち直しましたが、その後は減少傾向が続いて、ついに８０万人を切ることになりました。特にコロナが始まってからは結婚が減少したことが影響しています。

人口減少は経済成長を阻害し、社会保障制度の維持を危うくします。特に厚生年金と国民年金は自分で支払った保険料を積み立てるのではなく、現役世代の保険料が高齢者に支給する年金を賄うという制度だけに、少子化は現役世代の保険料の合計が支払うべき保険金の合計に足りないということになります。

３月１日の読売新聞の社説では「危機的な数字にどう対処する」というタイトルで、「国力の衰退につながる危機的な数字といえるだろう。政府はあらゆる手立てを講じ、少子化の克服を目指すべきだ」として論じています。

今国会では児童手当の所得制限撤廃が議論されています。わたしはそんなことではこの危機に対処できるとは思いません。

若者が安心して結婚できる、子育てができる社会を作っていく必要があります。正社員だけでなく、非正規社員やアルバイトなどの所得の向上を図り、男女が共同して子育てをする制度も必要です。若者の結婚観の変革、相手を見つける機会の増加も必要でしょう。子育てへの経済的補助、施設の拡充を考えなければなりません。

あらゆることをやる「少子化対策革命」を起こすことを考えるべきと思います。

ＷＢＣが開幕、日本が第１戦で中国に勝った（ＮＯ．１６８９）（令和５年３月１０日）

２０２３年３月９日、ＷＢＣ（ワールド・ベースボール・クラシック）１次ラウンドＢ組が東京ドームで始まりました。日本は中国を８－１で破り幸先の良いスタートを切りました。

ＷＢＣは２０チームが参加し、１次ラウンドは５チームずつ４組に分かれて、台湾、日本、アメリカの２球場の４カ所で行われます。各組上位２チームがトーナメント戦に進みます。準々決勝は東京ドームとアメリカで、準決勝と決勝戦はアメリカで行われます。

昨年１１月と１２月に行われたサッカーワールドカップと比較してみましょう。サッカーワールドカップは３２チームが４チームずつ８組に分かれ、上位２チームの合計１６チームがトーナメント戦を戦いました。すべての試合は原則１か国で行われます。ただ優勝するには７試合を戦う必要があるのは、野球もサッカーも同じです。

ＷＢＣのＢ組は、日本、韓国、中国、チェコ、オーストラリアの５チームです。トーナメント戦に行くには４勝すれば問題ありませんが、３勝１敗では３チームが３勝１敗となる可能性があります。日本はぜひ全勝で１次ラウンドを勝ち抜いてほしいと願っています。

Ｂ組では韓国とオーストラリアがライバルと思っています。チェコの実力はわかりませんが、日本が負けることはないでしょう。

ＷＢＣは今回が５回目の大会です。２００６年、２００９年は日本が優勝しました。２０１３年はドミニカ優勝、日本ベスト４、２０１７年はアメリカ優勝、日本ベスト４でした。

いままでの大会は国によっては必ずしもベストの選手を派遣したとは言えませんでした。今回は違います。各国ともメジャーリーグの実績のある選手を加えています。日本もメジャーで活躍している大谷、ダルビッシュ、ヌートバーの３選手が加わっています。

昨日の試合では大谷、ヌートバー両選手が大活躍しました。ダルビッシュ選手は今日の韓国戦に登板します。

ぜひ３大会ぶりに優勝してもらいたいと熱望しています。

ＷＢＣで日本が優勝、最高に面白かった（ＮＯ．１６９４）（令和５年３月２２日）

２０２３年３月２２日（日本時間）、アメリカのフロリダ州ローンデポ・パークで行われた６回目のＷＢＣ（ワールド・ベースボール・クラシック）の決勝戦で、日本が３－２でアメリカに勝ち３度目の世界一となりました。前２回はベスト４どまりでした。

決勝戦は最高のドラマがありました。アメリカに１点先取された２回裏、準決勝でサヨナラ２塁打を打った村上選手が初球をホームラン、同点に追いついたあともう１点追加しました。

４回裏には岡本選手のホームランで２点をリードしました。このホームランが最後に効きました。

その後は息詰まるような投手戦、８回にダルビッシュ投手が１点を取られましたが、９回は大谷が登板し、最後に同じエンジェルスの親友のトラウト選手を三振にとって試合終了、見事チャンピオンシップを獲得しました。

素晴らしい試合で、日本の強さ、二刀流の大谷選手のすごさを見せた試合でした。ＭＶＰは大谷選手でした。

前日の準決勝もドラマがありました。日本がメキシコにリードを許しながら９回裏、それまで３三振、１ファールフライだった村上選手が２塁打を打って６－５、サヨナラ勝ちを収めました。

日本は一次リーグはＢ組で４連勝しました。

・日本８－１中国
・日本１３‐４韓国
・日本１０－２チェコ
・日本７－１オーストラリア

そして同じ東京ドームで行われた準々決勝では日本９－３イタリアで、アメリカ行きを決めたのです。

大谷選手は中国戦と準々決勝に先発、打者としてはホームランと試合を決定づけるヒット打ち、意表を突くバントを決めています。

日本はＷＢＣ全試合で投手陣のすばらしさを見せました。

いままでのＷＢＣの中で今回が最高だったと思います。普段野球をあまり見ない人もテレビ放送にひきつけました。楽しく、面白かったＷＢＣ７試合でした。

「ふれあい塾あびこ」が閉塾となった（ＮＯ．１６９２）（令和５年３月１５日）

２０２３年３月１３日、我孫子市のＮＰＯ法人「ふれあい塾あびこ」が主催する「ふれあい塾あびこ講座」が、最後の講座を開催しました。

最後の講座は「ふれあい塾あびこ最終講座　レクチャーコンサート　”トランペットと共に旅をする”」でした。講師はトランペットが杉木峯夫、杉木淳一朗、杉木馨の親子３方、ピアノが西川幾子さんでした。

ふれあい塾は２０００年９月に開塾され、今まで１３０９回開催されました。私は千葉県生涯大学の同級生から誘われて、２００７年５月から講座に参加しました。それから１５年１０か月にわたって、４１０講座を楽しんできました。

場所は我孫子市のアビスタ、けやきプラザ、市民ホールなどで開催され、参加費は７００円、コロナ以降は人数を絞ったため１０００円となりました。開催日程は月５～６回、コロナ以後は月２～３回で、月ごとに事前に日程が発表され、好きな講座を選んで予約する方式でした。

講座の内容と講師は多岐にわたり、実に多彩でした。よくこんな方を講師に呼べたと感心することが多々ありました。文学、歴史、経済、海外事情、宗教、音楽、医療、旅行、登山、写真、老舗、絵画、その他などがあり、連続ではありませんが、同じ講師がシリーズものとして話されることが多くありました。

多彩な例として、音楽では、バイオリン、ソプラノ、ハーモニカ、チェロ、薩摩琵琶、マリンバ、ファゴット、フルート、トランペット、馬頭琴、初代うたのおねえさん、アイリッシュハープ、一弦琴、チター、バンジョー、ギター、新内節、オペラなどの専門家による演奏・歌唱と解説の講座がありました。いままでほかのところでいろいろな講座や研修を受けましたが、ふれあい塾ほどバラエティに富んだ楽しい講座はありません。

私はコロナが流行し始めたころからあまり歩けなくなり、遠出ができなくなりました。そのため我孫子で開催されるふれあい塾が最大の楽しみとなっていました。それがなくなったのです。残念ですが名残は尽きません。

約１６年の間には、スタッフの方、講師の方、一緒に受講した仲間との悲しい別れがありました。時の長さを感じています。

これまでのふれあい塾あびこのスタッフの方々のご努力には心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。また講師の方々にも感謝申し上げたいと思います。